

勿来高だより

平成26年9月24日

NO.21

「思い出」から「明日」へ

勿来高等学校長 阿部 武彦

新舞子海岸への市道と、夏井や豊間方面への市道の交差点に私の生れた家があった。

実家は、父が地元の中学校の教員だったこともあり、夕方の7時過ぎから近所の中学生が8畳の客間の折り畳みの机に集まってくる場所でもあった。寝間着に着替えて奥の間に寝かされていると、漏れてくる客間のほのかな光につれられてふすまを開け、何人もの中学生に加わり、持った鉛筆で描く絵を見せたりするのが楽しみであった。

「早く寝なさい。」と父に告げられ、後ろ髪引かれながら席を立つと、母が毛糸で編んだ寝間着の尻の部分は、なぜか大きく開いており、背を向けて奥の間に立つ私の後ろ姿のお尻が丸見えで、中学生たちは、大きな声で笑うのであった。

その時代の子供達は、まさしく地域の子だった。父もまたその子供たちの教育に一途に打ち込んでいた。子供達が学習や運動にのめりこんで、一途な時代を形成し、社会が右肩上がりに発展していたように感じた時代であった。

現代の少子高齢化社会の兆しなど、どこにも感じる事がなかった。子供達は次々と生まれ、学校は、その子供達をどんどん教育して向上させていく場所として未来永劫変わることのない場所であり続けるはずであった。

高等学校は、1クラス45人や47人、時には51人を数える場所であり、様々なエネルギーに満ちていた。いわき地区の教育環境としては、高等学校における定員のことよりも、400人を超える中学校浪人の問題が大きく取り上げられていた。

私が高校を卒業し、大学を経て教員となり、県内の複数の地域に赴任しながら、いわきでも9年務め、もう一度いわきに戻るまで30年を過ごす間、少子高齢化社会は、その全貌をあらわにし、今、勿来の地でその実際を目の当たりにすると、これからの地域に対して、今までの油断を明確化させられて、今後のための大きな責任を感じざるを得ないものの、個人の力ではどうすることもできないジレンマを持ちつつある。

せめて、一人一人の生徒の能力を向上させ、未来への道筋をつかみ取るためにはどうするかを子どもたちと一緒に全力をかけて考えていこうと訴えながら、少しでも地元に残り次の世代の支えになってもらいたいと折に触れて話をする。

来年から勿来高校の中に、いわき養護学校の分校が併設されるが、地元における教育のあり方を再考することから行われる事業の一つであると考え、いわきという大きな地域の中で少しでも細かな配慮ができないかという所からの決定であったはずだ。

しかし、あくまでも違う学校が一つ屋根の下でそれぞれの教育のあり方を充実していくための試みであるから、勿来高校は勿来高校としての教育の充実に進進していきたいと考える。人としての存在を認め合い、共生するところの大切さを生徒一人一人に醸成しながら、普通科高校としての可能性の大きさと学習の大切さを今まで通り授業の中に浸透させていかなければならないことは変わりがない。

地元を支える人材の育成に学校全体が一丸となって取り組む勿来高校の教育は、いつまでも続けなければならないと心から思っています。

勿来高校 体験入学

7月28日(月)に勿来高校で体験入学を行いました。今年度は、北茨城地区やいわき北部の中学生やその保護者、引率教員に参加していただき、例年以上の中学校から参加していただきました。

全体会では、教職員から学校の概況説明を行った後、本校生による勿来高校紹介をスライドを用いたプレゼンテーションで行いました。

その後、8つの班に分かれて体験学習に参加しました。その後は校舎や部活動見学を行いました。部活動見学では、活動状況を興味深く見学し、楽しそうに体験している姿が数多く見られました。終了後に書いてもらったアンケートには、

生徒	楽しかった。どんな授業があるのか分かった。 思っていた学校と違って安心した。 おもしろそう。やりがいがありそう。分かりやすかった。
保護者 引率教員	ボランティア活動も子供達の社会勉強につながるのよいと思った。 今後も続けていってほしい。 少人数制という事で勉強も分かりやすいことを期待している。 卒業生が、いきいきと中学生の支援している姿を見て、よい環境で活動しているのだと感じた。

など、多くの好意的な感想をもらうことができました。

これからも、このような機会を捉えて、現在の勿来高校の姿を地域の方々に、より理解していただけるよう努力していきたいと思っております。



夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動



「後部座席でもシートベルト！」

「幼児との自転車の二人乗り 危険がいっぱい！」

と書かれた交通安全に関するチラシとうちわを来店されるお客様に声をかけながら配布しました。

今後も、このような交通安全キャンペーンなど、啓発活動を通して、少しでも地域に貢献できるよう、いわき南警察署や地域の各種団体の方々と共にいろいろな活動に参加していきたいと思えます。

7月17日(木)16時からマルトSC勿来十条内において、夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動が行われ、いわき南警察署、交通安全協会とともに本校の生徒が参加しました。

校内で参加希望者の有志を募ったところ、1年生を含む約30名の生徒が参加しました。

警察署や交通安全協会の方々とともにマルト窪田店の入口2カ所および薬のマルト計3カ所に分かれて



秋の交通事故防止県民総ぐるみ運動



声をかけながらいわき南警察署の方々と一緒に配布しました。

配布したとき「ご苦労様」などと声をかけていただき、たいへんありがとうございました。

これからも地元の学校として、警察や安全協会など、地域の機関の方々と連携を取りながら、キャンペーン活動や清掃活動等、地域のためにできることを継続して行って参ります。

9月24日(水)15時30分からマルトSC勿来十条内において、秋の全国交通安全運動キャンペーンが行われ、約20名の生徒が参加しました。

今までのボランティアメンバーに加え、新生徒会役員も参加し、新たな気持ちで交通安全のボランティア活動を行いました。

今回もマルトの入口2カ所および薬のマルトの3カ所に分かれて、

「反射材を活用しましょう！」と書かれた、夜間の交通事故防止や飲酒運転の代償が書かれたチラシとボールペンを来店する方々に



勿来海岸清掃(2年1組)

勿来高校生による勿来海岸清掃の第3回目として、9月19日(金)に2年1組の全生徒が行ってまいりました。

海開きをした勿来海水浴場をきれいにしようと、生徒たちは関の子広場の方々とともに今回も一生懸命、清掃を行いました。

今回もホテル浦島前の海岸から清掃を行いました。地域の方々の美化意識が高く、いろいろな方々が海岸清掃を行っているため、ゴミが昨年ほど多くありませんでした。

そのような中、天気にも恵まれたこともあり、生徒たちは楽しく清掃活動を行っていました。

今後も、このような活動を通して、何か人の役に立ちたい、地域の方に対して貢献したい、という意識を一人でも多くの生徒が持ってほしいと思えます。



共生プログラムについて

来年度、本校敷地内にいわき養護学校分校が設置されるにあたり、勿来高生が校内で思いやりを持っていわき養護学校の生徒と共生できるような土台作りの一環として、共生プログラムを実施することにしました。今年度内に4回実施することを計画しています。

第1回目は、7月16日（水）にいわき市勿来地区社会福祉協議会によるプログラムを全校生に実施しました。

今回の内容については、自分自身が不自由さを体験し、心の不自由さとなげること、自分自身の状況と照らし合わせ、「自分にできること」を考えるきっかけとするため、「できることから始めよう～障がいと福祉について考える～」というテーマで、講演会を1時間、視覚障害体験を1時間実施しました。



講演会では「誰かのために」と考えることが「福祉」であり、目線の高さや声のかけ方、言葉の大切さ、誰かのためにと思うことの大切さ、のお話をいただきました。

視覚障害体験では、2人ペアとなり、片方が目隠しをし、視覚障害者と介助者を体験して、段差やカラーコーンなどの障害物の対応方法を体験しました。

生徒たちは今回のプログラムを通じて、相手を思いやることや自分にできることは何か、を考えるきっかけになったと思います。

第2回目は、8月28日（木）、29日（金）両日に渡り、スクールソーシャルワーカーによるプログラムを1、2年生全員に実施しました。8月28日は2年生、29日は1年生のクラスごとに実施しました。

今回の共生プログラムの内容は、グループに分かれ、いろいろな形のパーツを組み合わせて同じ三角形を1人1個完成させる作業でした。7月に実施した視覚障害体験プログラムを受け、今回は“協力”をキーワードとして、演習体験しながら協力することの重要性和コミュニケーションをする上で大切なことは何かについて考えるきっかけとしました。



生徒は、話をせずに作業をする、というルールとしたため、コミュニケーションの方法に苦労している姿が見られました。作業終了後は、振り返りシートに苦労した点や感想等を記入した後、グループごとに話し合いを行って発表しました。

今回のプログラムを通して、相手の気持ちを考えながら協力することやコミュニケーションの大切さを生徒は学んだようです。今まで以上に思いやりを持って人と接することができる気持ちを育ていけるよう、今後も共生プログラムを実施していきます。



なお、いわき養護学校分校の設置に当たり、先進校視察として、すでに養護学校分校を併設している埼玉県立草加西高等学校と千葉県立流山高等学校の見学会を計画しています。

参加者は、本校教職員とPTA、同窓会員の計15名程度を予定しております。要項を本校ホームページに掲載しましたので、興味のある方は教頭まで連絡して下さい。

ホンダによる自転車交通安全教室



7月15日(火)、本校の校庭及び新体育館で本田技研工業(株)による全校生を対象とした「交通安全教育」が行われました。

内容は、交通安全に関する基本的内容の座学が1時間、自転車を用いた実技が1時間行われました。座学では、基本的な自転車のマナーやルールを映像を交えながら具体的に説明していただき、交通事故防止の方法を教えてくださいました。

実技では、反応・回避体験と8の字交互通行体験の2つの体験を行いました。反応・回避体験は指導員が揚げた旗の逆側に自転車で回避する走行を行い、認知・判断・操作に掛かる時間やその際に走る距離を体験させて、一般道路に置き換えて理解させる体験でした。8の字交互通行体験は8の字走行している複数の自転車の隊列にできるだけ多くの生徒がコースに入る体験で、自転車の交差点や通過による認知・判断・操作を理解させ、減速や譲り合い、マナーの大切さを覚える体験でした。

生徒達には、座学と実技を通して、自転車の交通ルールやマナー、交通事故防止について、理解できたようです。今後も、L.H.Rや集会、講演会等を通して、自転車マナー向上や交通事故防止に努めていきます。

LINEによるインターネット講演会

7月16日(水)にLINE株式会社によるインターネット講演会が全校生対象に行われました。LINEの講演会は、最近増加しているインターネット上におけるトラブルの未然防止のために、LINE制作企画室CSR推進チームの浅子様から講演をしていただきました。

講演会の最初に、代表生徒2名がキャッチボールをし、どのようにするとキャッチボールができるのか考えさせ、相手を思いやることが大切であり、それはインターネット上でも同様である、と説明されました。

また、基本的な知識である「公開される」「記録される」「誰かが分かる」「拡散する」というインターネットの特徴を説明していただき、仮に個人情報がインターネット上にアップされたらどのような影響が出るのか等、具体的なお話をしていただきました。

今後も、インターネットの恐ろしさや情報モラル等について、講演会等を通して身に付けさせていきます。



1 学年進路ガイダンス

9月12日(金)5,6校時に旧体育館で1学年対象の進路ガイダンスを実施しました。

「仕事について考えてみよう」というテーマで、最初に自分に興味のある仕事・向かない仕事をワークシートに記入した後、グループごとに、80枚のカードに書かれている職業の内容からその仕事を当てる“パズルワーク”を実施しました。“パズルワーク”は、職業名が77個書かれているワークシート上に、80枚のカードを一つずつ置き、最後に残る3枚のカードを当てるゲームでした。



生徒たちは、グループの仲間達と楽しく取り組み、このゲームを通して、職業理解を深めることができたと思います。

今後も生徒個々の進路意識を高め、適切な進路選択ができるよう、進路ガイダンス等、継続して実施してまいります。

< 2学期の日程について >

2学期は就職試験や修学旅行、文化祭等の行事が続きますが、周囲に流されずに自分の目標達成に向け、努力を重ねてほしいと思います。

- | | |
|--------|----------------------|
| 9月30日 | 遠足(1,3年) |
| | 修学旅行(2年 沖縄方面 ~10月3日) |
| 10月15日 | 中間考査(~17日) |
| 20日 | 休業日(10月25日の代休日) |
| 25日 | ヤングアメリカンズ・文化祭準備 |
| 30日 | 勿来祭(~31日) |

図書館の整理等を行っていただけのボランティアを募集しています。希望のある方は本校までご連絡下さい。